

馬場ひでゆきの活動日誌

No.41

前号に引き続き、県議会の産業経済委員会（10月1日～3日）での私の質疑を紹介します。

今回ご紹介するのは、観光文化スポーツ部に対する質疑です。

※ ※ ※

今年3月に、北陸新幹線が敦賀まで延伸しました。関西方面からの観光客増加を期待しましたが、意外にも旅行者が伸び悩んでいると聞いています。

関西の客は、延伸前は、金沢まで特急サンダーバードに乗り、金沢で新幹線はくたかに乗り換えて糸魚川駅、上越妙高駅に下りていました。ところが、延伸後は敦賀で新幹線つるぎに乗ります。つるぎだと金沢、富山が

終点で、糸魚川、上越妙高に行くにはまたそこで乗り換えです。乗り換えが二度になり、旅行者には負担感があります。それから料金の問題があり、新幹線の距離が伸びた分、それだけ料金も割高になります。そこで、次の質問をしました。

馬場 新幹線の延伸が観光客増に繋がっていない。県の現状認識についてお聞きしたい。

観光企画課長 糸魚川駅、上越妙高駅は関西からの玄関口だ。関西圏からの誘客に向けて、JR西日本と連携した情報発信や、関西圏の旅行会社に対する旅行商品の造成支援などに取り組んでいる。来年は大阪・関西万博も開催される、本件の誇る様々な魅力を発信していきたい。

馬場 佐渡島が世界遺産になったことで本議会で補正予算が組まれた。佐渡の通念観光を促進するとともに県内全体への誘客を図ることを目的に旅行プランを企画するというものだ。しかし、（右のとおり）新幹線の便が悪いとなると、新幹線を利用して直江津から佐渡に向かうコースは難しいのではないか。

観光企画課長 旅行会社によれば、関西圏の方は、上越を利用して小木直江津航路を利用する方々が非常に多いと聞いている。関西圏の旅行会社にお願しているモニターツアーも、佐渡を絡めた周遊ツアーが非常に人気と聞いている。引き続き取り組を進めたい。

※ ※ ※
佐渡金山も新幹線も、すぐ観光客増に結びつかないようでもどかしいですね。でも、住民がその土地での生活を楽しんでいれば、自然と人が集まってくるのでは。そんな土地に上越地域がなれるように知恵を絞っていききたいと思います。

10月19日～11月1日

●10月19日、上越教育大学「いじめ・生徒指導研究研修センター」設置記念フォーラム（同大学講堂）
●19～20日 越後・謙信SAKEまつり

●21日 三和区道路並びに河川関係期成同盟会合同要望会（三和区割烹いりだ）

●23日 一般国道405号改良整備促進協議会総会（十日町市松之山公民館）

●25日 高田高校創立150周年記念美術展（大島画廊）

●26日 県知事杯争奪尾神岳スカイランプリ（吉川区）



●26日 高士小学校学習発表会

●26日 高田高校150周年記念祝賀会（デユオセレッソ）

●27日 第50回衆議院議員選挙
●27日 「フェスタ牧つていいねイタヤカエデの山里づくり」（牧区牧コミュニティプラザ）

●29日 県議会決算特別委員会（一日目）

●30日 県議会決算特別委員会（二日目）



不登校を考えるシンポジウム

10月19日、上越教育大学で「いじめ・生徒指導研究研修センター」の設置を記念したフォーラムが開催されました。

第三部のシンポジウムに登壇した不登校生徒の保護者、不登校経験のある学生の発言を紹介します。

保護者 子が不登校を経験した。最初は理由がわからなかった。「おなか痛い」から始まるがホントの理由は別にある。理由がわかるまで時間がかかる。親として、学校に行って勉強してほしい。強く言った時期もあった。子と親の思いに差がある。声かけやそのタイミングがわからずもやもやした気持ちになる。それをどこに相談したらいいのかわからなかった。でも、私が前を向きだしたら、子も話してくれるようになった。不登校の子に対するマニュアルがあったらいいと思う。

学生 中3のときに不登校になった。人間関係が大きかった。空気を読んでみんなに嫌われないようにしていたが疲れてしまい、学校に行けなくなった。でもその当時は何で登校できなくなったのかわからなかった。不登校のメリットは家族との時間が取れたことだ。（不登校から抜け出したのは）

上越教育大学 いじめ・生徒指導研究研修センター 設置記念フォーラム

上越教育大学いじめ・生徒指導研究研修センターの設置を記念し、フォーラムを開催いたします。いじめ・不登校に関する課題とその解決への取組みについて、子どもサミットやシンポジウムを通して一緒に学び、考えませんか？

日 令和6年10/19(土)
場 上越教育大学講堂

プログラム
12:30~13:00 開場 13:00~ 開会
13:30~14:30 【第一部】基調講演
「生徒指導に関する現状と課題」
講師：上越教育大学 教授 山田 隆二
14:40~15:30 【第二部】
子どもサミット
いじめ防止について考える
15:40~16:30 【第三部】
不登校を考えるシンポジウム
16:30~16:55 閉会

対象
新潟県内の教育関係者、中学生、保護者、地域の皆様、関心のある方など誰でもぜひご参加ください。

お申込み 当日お申し込み可
一般参加の方 無料
一般参加の方 400円
一般参加の方 10,400円

お申込み 当日お申し込み可
一般参加の方 無料
一般参加の方 400円
一般参加の方 10,400円

お申込み 当日お申し込み可
一般参加の方 無料
一般参加の方 400円
一般参加の方 10,400円

親の存在が大きかった。父親は普段帰りが遅くて会話もなかった。でも、自分のことが心配だった。たらし、毎日私にA4びつしり10枚くらい手紙を書いてくれた。正直うざかった。でも、親が心配している、味方になっていると言ってくれる気がして嬉しかった。

蜂須賀洋一 上教大准教授 不登校は自分を守るための最終的な決断だ。問題は不登校になって学習する権利をどのように保障するか。教育機会確保法、子ども家庭庁の創設などで不登校でも学習できる選択の幅が広がったと思う。

不登校に関わった方々のお話を直接聞いて有意義でした。すべての子に社会性を身につけてもらうことが学校教育の意義の一つと考えます。上教大が地域の核になって、多様な学びの場が作られていけばいいですね。

※ ※ ※

コーン Break

10月12日、市民卓球大会の開会式で主催者側の代表としてあいさつしました。私の肩書は、上越卓球連盟の副会長です。意外でしょ？

私は、中学時代に部活で卓球をしていましたが、その後卓球とは無縁でした。その後、私の子どもたちが卓球を始めて、そのご縁で協会の仕事をするようになったのです。子どもたちが小中の頃は、土日になると市外や県外に遠征に出かけました。私は選手を運ぶ運転手でした。楽しかったです。

私の子どもらと同時期にプレーしていたうちの一人は、大学を卒業して地元に戻り、自分の母校の高校教師になり卓球部の顧問をしています。また、式終了後、「馬場さん」と言って声かけてくれた女性もいました。私の長女の友だちでした。近況を語り合い、再会を喜びました。

地震からの復興 大潟漁港の現在

後追いレポート

10月12日、能登半島地震で被害を受けた大潟港を視察しました。地震のときは、小屋の窓ガラスは割れ、巻上機のモーターも浸水で破損、ボートも転倒していました。

それが見事に復旧。理事長によれば、船舶のエンジン、船体、魚群探知機などは、個人や組合が加入していた漁業保険で費用を捻出し、船巻上場の小屋や小屋の中にある巻上げ機は県と市の補助で修繕したそうです。

この日は快晴で道路脇には県外の車が停車し、防波堤は大勢の釣り人で賑わっていました。

現在の大潟港の様子。春はタイヒラメ、5月以降はカマス、アジ、カサゴ、キジハタ、ワラサが釣れます。

地震直後の大潟港。津波が直撃して小屋の窓を破損したり、中にあった道具も使用できなくなりました。

発行責任者：馬場ひでゆき事務所
住所 新潟県上越市本町3丁目3番3号
ダイヤパレス高田式番館2階
電話 025-546-7110
ファックス 025-546-7666
メール kengi-babahideyuki@wind.ocn.ne.jp

